

前回フォーラムでのご意見と機構の対応

ご意見	機構の対応
<p>(核不拡散に関する日本のこれまでの取組みとその分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 報告書には意義がある。日本にとって難しい問題を取り上げている。特に、機微技術の問題点について触れたことは評価する。Safeguards by design を主張するなら、安全審査の様な基本方針のチェックのなかで保障措置の対応も含めて審査していくべきではないかと考えている。 <p>別表1, 2に、IAEAについては、<u>SAGSI (保障措置実施に係る常設諮問委員会)等IAEA保障措置の基準作りに貢献している点が抜けている。また、炉規法の改正において、その目的に原子力施設と核物質の適切な防護のためという目的を入れたことが大きいため、記載した方が良い。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> コメントいただいた2点につき、報告書に追加した。(本報告書は社内レビュー中) ✓ SAGSIはIAEAの保障措置システムの発展に大きな貢献をしてきていること、また、我が国の専門家は、設立当初からSAGSIのメンバーとして議論に参加し、重要な役割を果たしてきたこと ✓ 1988年の炉規法の改正の際、同法の目的の一つとして、「核燃料物質の防護」が追加されるとともに、ある一定量以上の核物質を取り扱う事業者等に対し、核物質の防護のための必要な措置を講ずべきこと等が義務づけられたこと
<ul style="list-style-type: none"> 日本は、独自に保障措置対応のための努力を積み重ねてきた。しかし、<u>これからの日本の役割として、その知見・経験を他の国へどう展開するか、また、どういった協力の枠組みを使うか</u>が見えない。 	<ul style="list-style-type: none"> アジアにおける新興の原子力国に対し、核不拡散協力の取組みを実施している。特にベトナムに対しては、追加議定書への対応も含め、これまで我が国が本分野で培ってきた保障措置に関する知見をもって、ベトナムの保障措置に関する基盤整備に関する支援の取組みを実施している。こうした協力の枠組みとして、原子力機構では、今年6月にベトナム放射線・原子力安全規制庁(VARANS)との間で、保障措置や核セキュリティといった、核不拡散の基盤整備に関する覚書を締結した。 アジア核不拡散・核セキュリティ総合支援センター(仮称)という新たな支援機関を設置する予定であり、貴重な我が国の経験をしっかり伝えて行けるように支援センターの業務設計をしていきたい。

ご意見	機構の対応
<ul style="list-style-type: none"> 核拡散抵抗性ガイドラインについては、核不拡散科学技術センターに期待している。個人なのか、国家なのか、テロリストなのか、統合保障措置 (IS)・包括的保障措置 (CSA) 等の環境等について、多面的に評価すべき。IAEA においても動きがあるが、IAEA は政治的な問題もあり議論しない可能性がある。是非取り組んでいただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 核拡散抵抗性を十分備えた次世代核燃料サイクルの技術開発を進めることは、機構の使命である。 この為に、どの程度の核拡散抵抗性が十分なのかを示したガイドラインについては、機構の次世代部門と連携して、核不拡散科学技術センターが取り組む重要課題である。具体的なガイドラインの提案に向け、今後取り組んでいきたい。
<ul style="list-style-type: none"> 2018 年に次期の日米協定の更新。日本のスタンスを明確にする必要がある。現協定への改定については、カーター大統領が 1 期で終了し、レーガン大統領になっており、ある意味で非常に好意的なかたちで協定が締結されたが、2018 年はそんなに甘くはないのではないかと、<u>日本は国際的議論に耐えられるよう準備すべき。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 原子力機構では、特に、保障措置、核物質防護、核拡散抵抗性といった、核不拡散に関連した技術的要素に着目しつつ、2018 年に期限を迎える日米原子力協力協定の改定に向けて、留意点の抽出を目的とした政策研究を実施している。本研究の成果が、同協定の改定に向けての政府内部での検討に資するものになるよう、引き続き取り組んでいきたい。 政策的な議論を JAEA がリードしていくということはないが、保障措置技術や抵抗性技術など、技術的な視点でしっかりと国際的議論に耐えられるように準備したい。
<p>(次期中期計画と次年度計画について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 核燃料の輸送について、来年 10 月頃輸送に関するセキュリティ・セイフティの国際会議が IAEA で開催されるので、<u>JAEA も参加されたい。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> PATRAM2010 には、核不拡散科学技術センターからも参加する。 口頭発表は 1 件「MOX 燃料輸送の展望について」を報告する。また、ポスターセッションで 1 件「MOX 粉末の輸送」を報告する。